

有用な新技術の位置付け

別添1

選定件数：平成30年5月上旬時点

新技術活用システム検討会議が選定する有用な新技術

推奨技術(5件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的な新技術。

準推奨技術(11件)

公共工事等に関する技術の水準を一層高めるために選定された、画期的だが、更なる発展を期待する部分がある新技術

評価促進技術(2件)

他機関等の実績に基づき、公共工事等に関する技術水準等を高めることが見込める技術
(平成26年度より選定)

選考要件

従来に比べ飛躍的な改善効果を発揮

先駆的な取り組みであり幅広い活用が期待される

技術内容が画期的で将来飛躍的な効果の改善が期待できる

国際的に先端を行く技術、先進諸国への技術展開の期待

応用性が高く、国際的な課題の解決に資する

一般化・標準化に向けて活用を促す

新技術活用評価会議(整備局等)から
新技術活用システム検討会議に推薦

新技術活用評価会議(整備局等)が選定する有用な新技術

旧実施要領

活用促進技術(9件)

特定の性能又は機能が著しく優れている技術、など。

設計比較対象技術(31件)

技術の優位性が高く、安定性が確認されている技術。

少実績優良技(4件)

技術の優位性は高いが、直轄工事等における実績が少ない技術。

平成26年に改訂

現行実施要領に基づく 活用促進技術(163件)

・総合的に活用の効果が優れている技術
・特定の性能又は機能が特に優れている技術
など。

活用・評価

評価情報(活用効果評価、試行実証評価、事前審査)として反映された技術(約870件)

新技術(NETIS登録技術)(約2,900件)

有用な新技術のインセンティブ

■工事発注時の総合評価方式での加点(当該工事へ効果が見込まれるもの)

■工事成績評定での加点(発注者指定型を除く)

■設計業務の比較検討において対象技術となる(共通仕様書に規定)

等

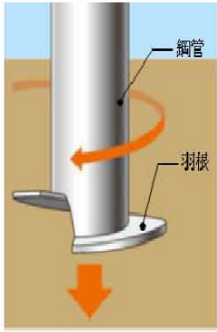
有用な新技術
約240件

評価済技術
約870件

NETIS登録技術
約2,900件

NETIS登録技術数

※複数の「有用な新技術」に選定されている技術があります。

7. 平成30年度準推奨技術
TH-110020-VE
小径NSエコパイル工法 (高さ制限や狭隘地への対応が容易な無排土・回転杭工法)
本工法は、先端にらせん形状の鋼板(羽根)を取付けた鋼管杭を木ねじのようにそのまま地中へねじ込む杭工法である。水やセメントを使用しないためプラント設備が不要であり、またコンパクトな小型杭打機のみで施工ができるため、従来工法に比べ、用地制限や高さ制限、近接施工等への対応が容易である。
 

8. 評価促進技術
QS-080010-V
ハイジュールネット工法 (高エネルギー吸収型落石防止柵)
大きな落石エネルギーをブレーキエレメント(緩衝装置)を用いて吸収し、耐久性が高く部分的な補修ができて維持管理が容易な高エネルギー吸収型落石防止柵(ハイジュールネット)。日本の地形に応じた支柱割付が可能であり、柵高のメニューも取り揃えている。
 施工事例  土砂捕捉試験(実物大)

9. 評価促進技術
HR-120004-A
ECONビ工法 (側溝の上部補修補強工法)
側溝本体を壊さず、老朽化した蓋のみをECONビ蓋(一次蓋・二次蓋)と交換することにより修繕する側溝修繕工法です。一次蓋を充填剤で固定すると同時に側溝本体の破損部も補修でき、交通を即日開放することが可能な技術である。
 一次蓋設置状況  二次蓋設置状況